



NO
WAR



園通信 令和7年5月1日 第2号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

枯れ枝から新しい葉が生え、新緑の季節になりました。

新しくキッドワールドセカンドこども園の仲間になった園児たちは、新しい環境の中で興味のあるものを見つけることができるようになり、安心してるところです。

さて、5月の大きなめあては「ぬくもり」です。医師で児童心理学者の平井信義氏は、著書『「心の基地」はおかあさん』で述べているのですが、子どもは「おかあさん」という絶大な信頼を抱く心の「基地」を持つことによって、そこを起点にしていろいろなところへ冒険しに出掛けることができるというものです。当こども園では、保育教諭がお母さんの代わりとして「基地」の働きができるように努めています。こども園においても心が疲れたときには「基地」へ帰ってくるので、そのときには十分な「ぬくもり」を与えられる存在でありたいと思います。

<今後の予定>

5月1日、2日 お弁当日🍱

5月 7日～ 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)

5月 9日(金) 避難訓練(火災想定、通報訓練)

5月12日～ 身体計測週間(いちご・あんず・きういぐみ)

5月12日(月) 聴力検査(れもんぐみ)

5月13日(火) 聴力検査(かりんぐみ)

5月14日(水) 聴力検査(すももぐみ)

5月26日(月) 誕生会

5月27日(火) 健康診断



親子お見知り遠足

4月19日(土)は、親子でのお見知り遠足でした。

日焼けするほどの好天に恵まれ、清々しい風に吹かれ、とても良い遠足日和となりました。企画していたレクリエーションでは、とても楽しそうな親子の触れ合いや卒園児同士での関わり、保護者同士での関わりがよく見うけられ、嬉しく思いました。



ことと思います。

たくさんのご参加、ありがとうございました。

その後の自由時間

でもたくさん体を動かし、11時ごろから「おなかすいた～」という声があちらこちらから聞こえたので、少し早めのお弁当の時間としました。きっと、いつもよりたくさん食べた



今日も子どもたちの部屋からチューリップの歌が響いています。子どもたちはただ元気に歌うだけではなく、両手でチューリップの花を作って踊っています。チューリップになりきって踊りながら歌っている子どももいます。

よく聞いてみると、

♪ さいた さいた チューリップの 花が
ならんだ ならんだ 赤 白 黄色
♪ どの花見ても きれいだな

と歌っているのです。とっても楽しそうに弾んで歌うので、歌詞もはっきりと聴き取れます。

園庭には、この歌の歌詞のように子どもたちが植えたチューリップが今を盛りに、どの花もきれいに光り輝いて咲いています。

子どもたちの歌が上手になってきたからでしょうか、この歌詞にはとても人を引きつける魅力があることに改めて気づかされます。

「さいた さいた チューリップの 花が」。この子どもたちの声を聞きながらチューリップを見ると、昨日咲いたチューリップは一層大きく花片を広げています。今日咲いたチューリップは今まさに花片を広げようとしています。明日咲くチューリップも蕾の中に花片を少し見せながら大きくほぐれるように膨らんでいます。それぞれに少しずつ花の開き方は違うのですが、いのちいっぱいきれいに咲いています。

「ならんだ ならんだ 赤 白 黄色」。咲いたチューリップの花は、形も色もそれぞれに分け隔てなくおのが向き向きに違和感なく並んで咲いています。「ならんだ ならんだ 赤 白 黄色」。ばらばらに並んでばらばらにいのちいっぱいきれいに咲いています。

「どの花みても きれいだな」。それぞれの花が、それぞれの色できれいに咲いています。「どの花みても きれいだな」。それぞれの花がそれぞれに妨げになることなく自由にいのちいっぱいきれいにきれいに咲いているのです。

このようにして歌詞を聞いていると、『仏説阿弥陀経』という經典の中にある「池中蓮華 大如車輪 青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色光 微妙香潔」（池の中に車輪のような蓮が咲いている。青い蓮は青く光り、黄色い蓮は黄色く光り、赤い蓮は赤く光り、白い蓮は白く光り、けがれのない素晴らしい香りを放っている。）という有名な一節が浮かんできます。

『仏説阿弥陀経』では、子どもたちが歌っている「チューリップの花」が「蓮の花」になっていますが、チューリップも蓮もそれぞれの花がそのままに香り高く輝いて、誰にも代わることでできないかけがえのない尊い存在であるということをいっているのです。つまり私たちが幸せに生きていくためには、チューリップの花が教えてくれているように「みんなちがってみんないい」（註1:金子みすずさんの『わたしと小鳥とすずと』）ということ子どもたちは毎日、先生と一緒に大きな声で楽しく歌っているのです。

註1:金子みすずさんの『わたしと小鳥とすずと』

わたしと小鳥とすずと

金子みすず

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、
地面（じべた）をはやくは走れない。
わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう、
たくさんのうたは知らないよ。
すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

